

第2回鎌倉市高齢者保健福祉計画推進委員会 議事概要

- 日時 令和4年11月28日(月)18時30分～20時00分
 - 場所 鎌倉市役所第3分庁舎1階 講堂
 - 出席者 赤井慶子、柏木聡、柴田元子、田中良一、手島廉幸
長谷川太郎、平井潤子、益田朋子、松村夕起子、峯尾武巳
山本俊文、渡邊武二、渡部月子 計13名(五十音順)
 - 議題
 - (1) 鎌倉市高齢者保健福祉計画の令和3年度実績報告書の修正案について
 - (2) 次期計画策定に向けたアンケート内容について
 - (3) その他
 - 議事概要

委員長より開会の挨拶の後、出席者の確認を行う。定員14名のうち13名が参加。委員の過半数が出席していることから委員会として成立することを確認。傍聴希望者はいなかった。

その後、事務局より事前配付資料の確認後、当日配付資料として以下の資料を配付した。また、本委員会の議事録についても公開することを全員了承した。
- 当日配付資料
- 第1回推進委員会 意見概要
 - 第2回推進委員会 意見概要

議 題

- (1) 鎌倉市高齢者保健福祉計画の令和3年度実績報告書の修正案について
事務局より資料に沿って実績報告書の修正内容と第1回推進委員会での意見の概要を説明後、質疑応答が行われた。主な意見は以下のとおり。
- (委員) 実績報告書は関係者向けか一般市民向けか。
(事務局) 一般市民向けに報告することが前提となっている。
(委員) 修正内容にある自己評価や事業の方向性の部分について、丁寧に

やるなら説明を付け加える方が良いのではないか。

(委員) 施設入所をしたいのに待機時間が長すぎて入れない人が出てきているとの声がある。そのため、施設入所における待機状況が希望者にもわかりやすくしてくれると良い。

(事務局) 待機者数は施設ごとに持っている数字であるため、市で施設ごとの待機者数を示すことが難しい状況である。

(委員) 市営住宅の入居方法や手続き自体を知らない人もいる。また、高齢者向け住宅を7戸募集というのも少ないのではないか。また、ここにかかる市の予算が増えないのか。

(事務局) 担当課へ伝える。

(委員) 防犯講話・教室の開催について、実績として挙げられている回数が少ないと感じる。実際私のところにも詐欺のメールが届いている中で、消費者被害への危機感を高齢者にも持たせないといけないと思う。

(2) 次期計画策定に向けたアンケート内容について

事務局より資料に沿って介護予防・日常生活圏域ニーズ調査、在宅介護実態調査、鎌倉市独自質問項目の内容及び第2回推進委員会の意見の概要を説明。また、介護保険課から在宅介護実態調査に追加する新たな質問項目について説明した後、質疑応答が行われた。主な質問と意見は以下のとおり。

○追加説明内容

内容：「介護サービスに関する質問」の追加

目的：介護サービス利用者の満足度の調査

追加を想定している調査票：「在宅介護実態調査 調査票」

具体的な質問内容：現在の介護度、利用しているサービス、利用している事業所のサービスの満足度など

<在宅介護実態調査（介護保険に関するアンケート調査）>

(委員) 在宅介護実態調査の対象は600人とあるが、どのような基準で抽出されるのか。

(事務局) 600人という数字の根拠が明確に示されていないが、600人程度集まれば一定の情報を得られるということでこの数字になっていると思われる。聞き取る対象者は令和4年12月上旬から令和5年1月末までの間に更新または変更申請をされた方のうち、在宅で訪問調査を実施する方に対して認定調査員が認定

調査と併せて聞き取り、または本人に記入してもらうので調査は1カ月の間で実施する予定となっている。

(委員) 在宅介護実態調査は圏域ごとではなく全域ということか。

(事務局) 全域に対して実施する予定。

<鎌倉市独自質問（介護保険に関するアンケート調査）>

(委員) 鎌倉市独自質問項目の在宅介護実態調査に関する項目は、ケアマネジャーも答える立場になる質問項目か。主な介護者が困ったときに誰に相談できそうかは、誰が答えるかで変わってくる。親族に質問が集中しているのではという意見もあったと思われる。

(事務局) 本人以外の方が回答する場合もあるが、どちらも対象としてその回答する方が思う主な介護者が困ったときに相談できる人ということで捉えてもらうもの。

(委員) 介護保険の満足度は答える方が本人・家族・ケアマネジャーと回答者が変わってくるため、そこを踏まえて分析されるのが良い。

(委員) 訪問看護ステーションを運営しているが、男性は困るなどという話も受けることがあるため、在宅介護実態調査に関する質問項目として、ハラスメントに関わることをうまく質問ができればよいのではないか。

(委員) ハラスメント対策につながっていくような質問項目を作ることを検討してもらいたい。今回のアンケートを通して、市から発信してもらえたらよいのではないか。

(委員) 市で介護にかかる負担、いくらお金が出ていくかなどについて把握されていないように思われる。介護に係る費用を聞くのはどうか。例えば、サービス付き高齢者向け住宅に入っている人はいくら施設にお金を払って、おむつ代がいくらで、医療機関にいくら払っているとか、大体で良いのでわかると今後の施策につながっていくように思う。

(委員) 要支援・要介護認定を受けている人が対象なので、実はもっとこうしたほうが良いと言ってあげられるもの、主介護者に対してそんなに頑張らなくても良いと伝えられるような質問項目であると尚良いと思う。

(委員) タクシー代などの交通費も質問に入れた方がよいのではないか。

<日常生活圏域ニーズ調査（高齢者保健福祉に関するアンケート調査）>

(委員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査は65歳以上の何%くらいを

対象としたアンケートか。

(事務局) 65歳以上の高齢者が約5万3,000人おり、そこから要支援者・要介護認定者1万1,000人を除いた4万2,000人を対象としたアンケートとなっている。実際の送付数は生活圏域ごとに800人の5地区で合計4,000人、前回の回答率が50%であることから各地区400人を想定している。なお、厚生労働省から示されている各地区で確保すべき数として400人という数字が示されている。

(委員) 今回の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査で、国は日常生活圏域を中学校区ととらえているが、5つの日常生活圏域ごとで実態をまとめることができるか。

(事務局) 生活圏域は国が示している中学校区くらいであることから、鎌倉市は現在5地区に設定しているが、中学校区くらいが望ましいのではないかと考えている。今回はこれまでどおりの区域での実施を予定しているが、次期計画策定に向けて議論してもらい、委員の方のご意見を踏まえて変更できるところは変更していきたい。

(委員) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の問4の3で介護が必要になったときの病気に泌尿器科の病気がないのかわからない。膀胱とか前立腺で尿の処理で苦労されている人が多いと感じている。

(事務局) 質問と選択肢は市の方で変えることができないものとなる。その場合はその他で答えてもらうことを想定している。

<鎌倉市独自質問（高齢者保健福祉に関するアンケート調査）>

(委員) 鎌倉市独自質問項目の年齢などの属性に関する質問は本人なのか介護者も含むということか。

(事務局) 対象者本人に対する質問となる。

(委員) 鎌倉市独自質問項目について、鎌倉市が実施している次のサービスを利用しているかという質問は、たしかに使っている人は良く分かっているかもしれないが、高齢者の生活実態で出てくるような言葉になっているかわからない。地域貢献バスモデル事業など、少しわかりやすい補足説明の検討をお願いしたい。

(委員) 地域包括支援センターの認知度が前回の調査では49%が知らないと記憶しており、非常にショックで、やっぱり認知度を上げていきたいと考える。アンケートも認知度を上げる1つの手段でもあるから、自分のところがどこの地域包括支援センターに入っているのかを知ってもらうことが大事である。

<その他>

- (委員) サービスを受ける側の市民についてはアンケート調査を実施するなどニーズを把握しているが、提供側である施設側の調査の現状が全体的に見えていない。施設側へのアンケート調査も実施してみてはどうか。ニーズとシーズのマッチングをさせないと良い計画はできないため、そういったことも検討してもらいたい。
- (委員) 特別養護老人ホーム入所希望者の待機状況について、現状は鎌倉市内に 11 施設あるが、比較的入りやすい状態になっていると思われる。有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などが増えた実情も影響が大きい。ただ、今なかなか面接まで案内できない一番の理由はコロナで、入所者のところへ伺おうとしても面会を断られたり、逆に施設でコロナが発生してしまっていると案内できないとかでなかなか進まない。どういう空き状況であるとか、どのくらい待たせるか、あとはできれば費用まで発信できれば良い。

(3) その他

議題 1 と 2 について、委員会での意見を踏まえて委員長と事務局で調整し最終的決定することで委員全員から了承を得る。

また、事務局より、次回日程を令和 5 年 3 月下旬頃に実施する旨を連絡。